

素材へのアプローチ（素材と向き合って考える）

美術教育講座・原田義明

1. 授業の概要と目的

本授業は、学校教育実践コース（美術教育専修）及び造形芸術コースの3回生を対象とした合同授業であり、後学期に開講されている。本年度の受講生数は11名（美術教育専修3回生1名、造形芸術コース3回生9名、4回生1名）である。

本授業では、様々な素材を使った作品制作を通して、素材のもつ性質をみきわめて、これを造形的に処理して、生活のためのものをつくることについて学習することが目的である。

授業の到達目標は以下の3つを設定している。

（1）造形素材への直接的な働きかけ（素材体験）を通して、生活の中における工芸の意義について説明できる。

（2）与えられた課題内容を理解し、それを生活に関わるものとして作品制作に生かすことができる。

（3）造形素材の特性を各自の制作意図に的確に反映させ、作品を具現化させることができる。

2. 授業の内容

この授業は2つの異なる造形素材と2つの課題で構成されている。各素材ごとに課題を設定し授業を進めていく。課題Ⅰでは、ポリエステル樹脂を主要な造形素材として作品制作を行い、課題Ⅱでは、金属を造形素材として鋳金の技法により作品制作を行う。実際に素材を加工する様々な技法を身に付け、より深い素材体験を目指す。

3. 素材へのアプローチ

工芸の制作においては、制作者がどのようなスタンスで素材にアプローチするかは、表現に関連して非常に重要なものである。制作者自身の中から表出してくる様々な感情やイメージと制作に用いる素材の種類や特性、性質といったものが有機的に連動して表現が具現化する。学生が制作者として自己の感情や感覚を通して素材の声を聞き、素材に導かれる中、これをいかに表現につなげるか。今回は、課題Ⅰの内容を一部変更し、ポ

リエステル樹脂と金属、またはポリエステル樹脂と木といった複合素材による課題を設定した。これは、学生が異素材同士の組み合わせによる制作を通して、より強く素材を意識し、どのように素材へアプローチするか、どのように素材と向き合っているかを意図したものである。

4. 授業改善のためのアンケート

授業の最終日にアンケート用紙を配布し、後日提出でアンケート調査を実施した。

今回、授業改善のためのアンケートを実施するにあたって、ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）に関するアンケート項目を新たに加えた。なお、本授業は2つの課程・コースの受講生が混在しているため、ディプロマ・ポリシー（以下、DP）も2課程に分けて行った。

本授業におけるDPについては、学校教育教員養成課程のDP及び芸術文化課程、造形芸術コースのDPとも、DP1を重点項目として設定しているため、今回のアンケートの回答内容はDP1のみを抽出した。DPに関しては、4段階で自己評価を行い、①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとした。

DP以外の質問に関しては、問13までは、5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお、問11の回答は、はい①いいえ⑤で答えることとし、問14～16は記述式とした。回答者 7名

5. アンケートの結果

【教育学部DPに関する質問項目】

（学校教育教員養成課程）

DP1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。（知識・理解）

③ 1名

(芸術文化課程)

DP1. 生涯学習社会を築くため、芸術文化全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における専門知識を修得している。(知識・理解)

③ 5名 ④ 1名

【授業の内容に関する質問】

1. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。

④ 3名 ⑤ 4名

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

③ 3名 ④ 2名 ⑤ 2名

3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

③ 1名 ④ 2名 ⑤ 4名

4. この授業により、自分の考えが培われたり、得るところがありましたか。

③ 3名 ④ 1名 ⑤ 3名

【授業方法に関する質問】

5. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

④ 3名 ⑤ 4名

6. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

④ 1名 ⑤ 6名

7. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

④ 2名 ⑤ 5名

8. この授業では、教材や資料が工夫されていましたか。

⑤ 7名

9. 授業の中で質問や意見発表に機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

④ 1名 ⑤ 6名

【受講者自身に関する質問】

10. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

② 1名 ④ 3名 ⑤ 3名

11. この授業の受講に際し、シラバスを読みましたか。

① 4名 ⑤ 3名

【授業全体に関する質問】

12. この授業のテーマ・目的は達成されましたか。

② 1名 ③ 3名 ④ 2名 ⑤ 1名

13. この授業は満足のいくものでしたか。

③ 2名 ④ 1名 ⑤ 4名

14. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○何人か欠けることがよくありましたが、それについて特にありません。自分の作業時間が減るだ

けなので。

○臭いがこもるのがきつかった。

(特に樹脂の時)

15. この授業で良かったと思う点、印象に残った点を記述して下さい。

○専門的な技術を経験することができる点(特に鑄金)。鑄造の見学なども貴重な体験となりました。ありがとうございました。

○自分の作品に対し、細かくアドバイスがあったのがよかった。

○素材の構成という、グラフィックの上だけでは見落としがちな課題に取り組み、他の素材との違いから気づきがあったこと。

○特にありません。

16. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○特になし。

○特にありません。

6. まとめ

工芸の制作では、素材に触発されて発想や表現が広がるが多くあり、制作にあたってどのように素材へアプローチするかは重要である。今回の授業では、学生により強く素材を意識して欲しいと考えて、課題内容を一部変更し複合素材(異素材)の導入を試みた。合評会では、学生に異素材同士の組み合わせについて質問したが、○素材同士の継ぎ目や境界の処理の仕方が難しかった。○素材がもともと持っている質感が違うのでその関係の処理に困った。○性質の違う素材の組み合わせに苦労した。といった1つの形体の中に2つの素材を取り入れることに違和感を持った学生もいたが、○樹脂は加工方法によって印象が変わるので、異素材と組み合わせることで表現が広がる。○異素材同士は、仕上げの方法(磨き、着色方法など)で関係がつけられる。○素材の特性を併せてどう生かすかが大切で、異素材の組み合わせにはそれほど抵抗感はない。といった複合素材を前向きに制作に取り入れようとしている発言も複数あった。どの学生も今まで以上に強く素材を意識し、様々な方法で素材へのアプローチを試みたことが、それぞれの発言から伺え、この課題の目的は概ね達成できたと考える。アンケートでは、質問項目に新たにDPに関する質問項目を取り入れた。回答結果からは、DPの重点項目に対応した授業内容であったと考える。しかし、学部のDPの存在を知らない学生も多くいた。DPをどのように学生に周知するか、今後、学部として検討する必要があると感じた。